



ことしば



【学校教育目標】

「挑戦し、未来を拓く『琴芝っ子』の育成」

12月号



校内音楽発表会

師走 ～今年1年間の振り返りと2学期のまとめを！～

早いもので、気が付けばもう師走です。つい先日、ようやく秋の気配を感じたかと思っていましたが、今では通勤・通学で通りをゆく人の姿は、マフラーに手袋といった冬支度。今年の秋は一気に通り過ぎたようで、ゆっくりと紅葉狩りとはいきませんでした。一方、子ども達にとっては、様々な行事を通して心身共に大きく成長し、まさに「実りの秋」でした。

日本では、1年の区切りが二つあります。一つは年度の区切り、もう一つは暦年の区切り。12月は暦年の区切りとなります。学校では、3月が年度の区切りで、学年の終わりとして大きな意味を持っていますが、暦年の区切りである年末年始は、日本の伝統文化という面から、大きな意味を持っています。

区切りのことを、私たちは節あるいは節目と呼びます。節目は、私たちがよりよい生活を送っていく上で、重要な役割を持ちます。時間は永遠に止まることなく流れていきます。時間には区切り（節目）はありません。私たち人間にとって、いつ終わるか分からないことをずっと続けることはとても難しいことです。しかし、節目があることで、身近なゴール（目標）を決め、その結果がはっきりと分かり、達成感・充実感を味わうことができるのです。また、節のある『竹』がそうであるように、節があることで、困難に耐える「強さ」とそれらに上手に対応する「しなやかさ」が生まれます。



11月参観日



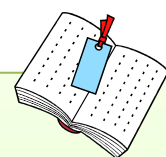
上宇部中学校見学会

新しい年になって、「さあ、今年の目標は・・・」と考えるのでは、すでにスタートから出遅れてしまいます。この12月のうちに、今年1年の自分を、そして、2学期の自分を振り返って、新しい年に向けて、また、3学期に向けて、目標とそれを達成するための方法をしっかりと考えてみるとよいと思います。師走の風物詩となった、『今年の流行語大賞』や『今年の世相を表す漢字一文字』とともに、ご家庭で話題にしてみてもはいかがでしょうか。



校長のつばやき

読書のすすめ ～語彙力、想像力を高める～



先日、「UBE読書のまちづくりフォーラム」で、明治大学教授の齋藤孝先生が講演をされました。たくさん示唆に富む、とても興味深い話でした。その中から2つ取り上げてみたいと思います。

一つは、「読み聞かせ・読書の効果」です。絵本や適度な挿絵のある本は、子ども達の想像力を育てることです。アニメや漫画は、映像が鮮明で、10人いれば10人が同じ状況を想像します。しかし、本は、話を聞いて（読んで）、一人ひとりが想像する状況は、それぞれ違います。最近では、想像力が乏しいために、コミュニケーションがうまくとれずにトラブルになるということもあります。想像力を高めるために、読書はお勧めです。小さい時から、しっかり本に親しませたいものです。

もう一つは、「語彙力を高めることの大切さ」です。子ども達は世界に開かれた社会を生きていきます。世界中の様々な人と関わる機会が増えてきます。当然言語も様々です。その中では英語が最も広く使われているため、英語でコミュニケーションがとれることも大切です。しかし、もっと大切なのは、「自分が伝えたいことを正しく日本語で表せるか」と言うことだと齋藤先生は言われます。語彙が乏しければ、自分の伝えたいことも十分に伝わりません。だから語彙力を高めることが大切だということです。そのために効果的なのが、読書です。いい作品（小説や古典など）をたくさん読むことで、その中で作者が使っている素晴らしい言葉にたくさん触れることができ、語彙力が高まり、表現力も豊かになるということです。

ぜひ、ゲームやテレビをちょっと控えて、読書の時間をしっかりと確保したいものです。